

この夏

吉本洋子

夏を見ていた
庭のレモングラスが焼け焦げて
ただの茅にかえって
うな垂れて
この夏はあの夏に

あの夏
お前が押せよ
嫌だよ お前が押せよ
一列に並んだ物の怪めいた人間の列が
声を掛け合っている
血を吐くほどの声だったろうか
崩れるほどの引きつった顔だったろうか
人間だから

今年の夏は水遣りが間に合わなくて
気に入りの鉢を幾つも枯らしてしまった
私の怠惰が大事なものを失わせる
命を繋ぐ一番当たり前の事柄を
いとも簡単に後回しにした
この夏
刑務官の忌避するスイッチは4つ
自分ではなかったという免罪符の揺れ幅が
笑えるくらい貧しい

あの年のあの夏
そのスイッチは幾つ並んでいたのか
どんな目くらましで
人間だったら押せないそれを
カモフラージュしたのか
人間だったら押せないそれを
人間が押したのかあの夏に